

社会資本総合整備計画

「鹿児島市における人と環境にやさしい
交通環境の充実による公共交通利用の促進」

事後評価シート（原案）

令和2年11月

（鹿児島県 鹿児島市）

社会資本総合整備計画(市街地整備) 事後評価書

令和2年11月

計画の名称	1 鹿児島市における人と環境にやさしい交通環境の充実による公共交通利用の促進							重点計画の該当				
計画の期間	平成27年度～平成31年度(5年間)			交付対象	鹿児島市							
計画の目標	鹿児島市の交通結節点における駐輪場、自動車乗降場等の整備により、過度な自動車依存から公共交通機関への利用転換を促進し、人と環境にやさしい交通環境を形成する。											
計画の成果目標(定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> ・駐輪場、自動車乗降場、駅前広場整備による駅利用者数の増加(坂之上地区:現状維持、谷山地区:約20%) ・駐輪場整備による駐輪場利用台数の増加(約24%) 											
定量的指標の定義及び算定式				定量的指標の現況値及び目標値			備考					
				当初現況値 (H27当初)	中間目標値	最終目標値 (H31末)						
①	「坂之上駅利用者数」=JR坂之上駅の日当たり換算乗降客数			4,387人/日	-	4,390人/日						
②	「谷山地区の駅利用者数」=JR谷山駅、慈眼寺駅の日当たり換算乗降客数			7,911人/日	-	9,470人/日						
③	「谷山地区の駅、電停の駐輪場利用台数」=JR谷山駅、慈眼寺駅、谷山電停の日当たり駐輪場利用台数			1,630台/日	-	2,020台/日						
全体事業費	合計 (A+B+C+D)	801百万円	A	615百万円	B	-	C	186百万円	D	-	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C+D)	23.2%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施期間
<ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島市公共事業評価検討委員会(内部)での審議 ・鹿児島市事業評価監視委員会(外部委員)での審議 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年11月
	公表方法
	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページへの掲載

1. 交付金対象事業の進捗状況

交付対象事業																
A 基幹事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	個別施設計画 策定状況	備考
									H27	H28	H29	H30	H31			
1-A-1	都市交通	一般	鹿児島市	直接	鹿児島市	坂之上駅アクセス環境整備事業	駐輪場、自動車乗降場整備	鹿児島市						5	-	
1-A-2	都市交通	一般	鹿児島市	直接	鹿児島市	谷山地区駐輪場等整備事業	駐輪場、遊歩道整備	鹿児島市						333	-	
1-A-3	都市交通	一般	鹿児島市	直接	鹿児島市	谷山地区アクセス環境整備事業	駅前広場整備	鹿児島市						277	-	
合計													615	-		
B 関連社会資本整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	個別施設計画 策定状況	備考
									H27	H28	H29	H30	H31			
合計																
C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	個別施設計画 策定状況	備考
									H27	H28	H29	H30	H31			
1-C-1	都市交通	一般	鹿児島市	直接	鹿児島市	谷山地区遊歩道整備事業	遊歩道整備	鹿児島市						186	-	
合計													186	-		
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考				
1-C-1	都市交通(1-A-2)と一体的に整備することにより、徒歩による交通結節点へのアクセス性が向上する。															
D 社会資本整備円滑化地籍整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
									H27	H28	H29	H30	H31			
合計																
番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考				

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

<p>I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況</p>	<p>○駅前広場（谷山駅、慈眼寺駅）の整備により交通結節機能の強化を図った。 ・慈眼寺駅前広場（供用開始：平成30年5月25日） ・谷山駅前広場（供用開始：令和元年8月23日）</p> <p>○駐輪場（谷山電停、谷山駅、慈眼寺駅）の整備により自転車の利便性の向上を図った。 ・市営谷山電停自転車等駐車場（一部供用開始（653台）：平成29年3月27日、全面供用開始（98台）：平成30年9月2日） ・市営谷山駅自転車等駐車場（一部供用開始（438台）：平成30年2月10日、全面供用開始（391台）：令和2年6月12日） ・市営慈眼寺駅自転車等駐車場（一部供用開始（385台）：平成29年3月27日、一部供用開始（137台）：平成30年3月25日、全面供用開始（150台）：平成31年4月8日）</p> <p>○遊歩道の整備により徒歩での交通結節点へのアクセス性の向上を図った。 ・旧森永踏切～旧田辺第二踏切（L=約260m、供用開始：平成31年1月30日） ・旧田辺第二踏切～旧試験場踏切（L=約260m、供用開始：令和元年8月30日） ・谷山駅付近～旧森永踏切（L=約220m、供用開始：令和2年1月31日） ・旧試験場踏切～木之下川（L=約370m、供用開始：令和2年2月14日） ・永田川右岸（L=約60m、供用開始予定：令和2年12月）</p> <p>○駅前広場、駐輪場等の整備により、自動車から公共交通への利用転換を促進するとともに、バリアフリー環境、防犯性等の向上や賑わいの創出により人と環境にやさしい交通環境の形成を図った。</p> <p>○坂之上駅アクセス環境整備事業については、用地買収協議が難航し事業実施には至らなかった。</p>			
--	--	--	--	--

<p>II 定量的指標の達成状況</p>	<p>指標① 坂之上駅利用者数 =JR坂之上駅の日当たり換算乗降客数</p>	最終目標値	4,390人/日	目標値と実績値に差が出た要因	・事業未実施
		実績値	4,526人/日		
	<p>指標② 谷山地区の駅利用者数 =JR谷山駅、慈眼寺駅の日当たり換算乗降客数</p>	最終目標値	9,470人/日	目標値と実績値に差が出た要因	・現況値より駅利用者は増加したものの、区画整理事業による一時的な人口減に伴い目標値の達成には至らなかった。 （谷山地区の人口はH27年(62,222人)からH31年(57,690人)で7.3%減少している。） ・谷山駅、慈眼寺駅への徒歩、自転車によるアクセス経路（遊歩道、自転車道等）の一部が未供用のため。
		実績値	8,598人/日		
	<p>指標③ 谷山地区の駅、電停の駐輪場利用台数 =JR谷山駅、慈眼寺駅、谷山電停の日当たり駐輪場利用台数</p>	最終目標値	2,020台/日	目標値と実績値に差が出た要因	・現況値より駐輪場利用者は増加したものの、区画整理事業による一時的な人口減に伴い目標値の達成には至らなかった。 （谷山地区の人口はH27年(62,222人)からH31年(57,690人)で7.3%減少している。） ・谷山駅、慈眼寺駅への自転車によるアクセス経路（自転車道等）の一部が未供用のため。
		実績値	1,883台/日		

<p>III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)</p>	<p>【良好な都市景観の形成】 ・谷山駅前広場、慈眼寺駅前広場の整備により、良好な都市景観の形成が図られた。 ・駐輪場の整備により、慈眼寺駅前の道路上の放置自転車がなくなり、都市景観の向上が図られた。</p> <p>【バリアフリー環境の向上】 ・誘導ブロックや身障者用乗降場、シェルター等を備えた駅前広場を整備することによりバリアフリー環境の向上が図られた。</p> <p>【回遊性の向上】 ・高架下遊歩道や駅前広場の整備により、回遊性の向上が図られた。 ・今後、区画整理の事業進捗と2号公園の整備により、駅利用者及び沿線住民の更なる回遊性の向上が見込まれる。</p> <p>【防犯性の向上】 ・高架下遊歩道や駐輪場、駅前広場の照明設備により、夜間の防犯性の向上が図られた。</p> <p>【賑わいの創出】 ・自由通路を挟んで谷山駅前広場、2号公園が一体的な空間として整備されることにより、今後イベント開催等の賑わいの創出が見込まれる。</p>			
--	--	--	--	--

3. 特記事項（今後の方針等）

別の整備計画により自転車道等の整備を進めるとともに、周辺で施工中の土地区画整理事業の進捗を図る。